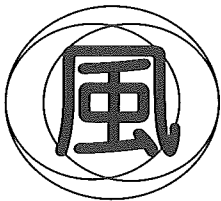


# 関西いのちの電話

こころがつかれたら... **06-6309-1121**

自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)0120-738-556  
毎月10日 午前8:00 ~ 翌日午前8:00



## 「大過なく」

関西いのちの電話 理事長 今村 一之

今から14年前、大阪YMCAから、大阪YMCAと関西いのちの電話の関係を維持強化するため、いのちの電話の理事を務めて欲しいと頼まれました。

各地のいのちの電話とYMCAは、大体協力体制をとっていて、当時は大阪YMCAも可成り強力に支援をしていたようでした。私の前任者は、大阪YMCAの副総主事の酒井哲雄さんでしたが、少し体調を崩され、文句なしに理事長職が回って来たのです。それから数年、私にとっては大きな重い荷を負うことになりました。

昨年、関西いのちの電話は、35年の歴史を刻みました。いくつかの記念のイベントが着実に実行され、特に募金が成功し、経済的にひと息つけたのは嬉しく、ありがたい話です。私が関西いのちの電話に係って、第一に感じたのは、そのボラン

ティア精神の素晴らしさでした。自前で訓練を受け、担い手になってからは、交通費も自前で、大切な時間と労力を提供してくださり、誠心誠意務めていらっしゃるのを目にして、ただただ脱帽の他ありません。

先日の理事会で、私は辞任を認めていただき、心から感謝しています。月並みな表現ですが、大過なく務めを全うでき、感謝の念でいっぱいです。ただ、相談員の皆様には、少しでも経済的に報いたいと思っていたのが、実現できなかったのが心残りです。

どうぞ、健康管理に意を用い、自己研鑽、相互研修に努められ、電話の向うで相談員の暖かさを待っている方々に、最大限の奉仕を続けていただくことを念願してご挨拶いたします。

# 関西いのちの電話 創立35周年記念公開講座

～いのち・こころ・いやし～

開催日：2009年2月7日 会場：大阪YMCA会館

講師：柏木 哲夫 氏（金城学院学院長・大学長 大阪大学名誉教授）

人間にあって動物にない、それは宗教と音楽とそれから自殺。これは妙な取り合わせと思われるかも知りませんが、動物には宗教ないんです。それから動物の世界に音楽、芸術はないんですね。それから動物は自殺しない。宗教、音楽、自殺というのはですね、人間特有の現象です。それはなぜ人間に特有かという、人間に魂という存在様式があるから、動物とこの三つの点で異なるのではないかと私は思っています。（中略）

自殺が成立する3要素というのがあります。第一はですね、自分で手に負えないという体験をしているということが第一条件です。今3万人を超える人々が自殺をしてしまう。特に不況の時代で中高年の自殺が非常に目立って、男性の自殺が目立っています。リストラにあって家族養うことができない、この状況は自分にとって手に負えないという体験をしておられる。その手に負えないという体験が一時的なものではなくて長期に渡ると感じ、自分を消す以外に逃げる道がないと感じておられる。そういうことが2番目。そしてそういう自殺という行為に歯止めがかからない。

外的な歯止めっていうのは家族であり友人であり治療者である。いのちの電話で働いておられる場合は相談員が歯止めになる場合がある。自分もう自殺をしたいんだけど、自分が自殺したら一体子供たちはどうなるんだろうか、子供たちの為に自殺だけはやめておこう。これは外的な歯止めです。内的な歯止めっていうのは自分の信条であるとか、信仰であるとか、人生観であるとか。例えば神様によって与えられたいのちだから自らの手でそれを抹殺するということだけはしてはいけないという、これは人生観とか宗教観とか信仰とかになるでしょうね。内的な歯止めの為に自殺を思いとどまるといふ人がありますね。

人生って、人として生まれて人として生きることが人生ではないかと私は最近思っています。人として生まれる、動物じゃなくて人として生まれるというのはどういうことかという、魂を持つ存在として生まれるということではないでしょうか。それゆえに私達は人間、人としての特有の魂の痛みを持つわけです。先ほどのAさん、自分がやがて死を迎える時になぜ私がこんな状態にならないといけなかったのか、なぜこんなに気をつけていたのに私が病気になったのか、そういう状況の中でそれを受け入れざるを得なくなり、娘さんに謝るといふ事だけはなんとか実現したい、これ全部魂の中から湧きあがってきたいろんなことですよ。ですから私達はやはり人として生まれるということは魂を持った存在として生まれてきたんだということが非常に大切ですね。

それから人生というのは人として生きる。人として生きるというのは、私は自分の体験から二つの側面があるというふうに思えるんです。

ひとつは、存在の意味を考えながら生きるといふこと。自分がこの世に存在する、存在しているというのは一体どういう意味があるんだろうかという存在の意味を持つ。それから動物には決してできない人特有の、そのこころの動きというか、魂の動きというか、それは死というものを視野に入れて生きていく事の重要性。私は自分の職業柄、多くの人々の死に立ち会ってきましたけれども、ほんとに人間というのは死にますね。当たり前ですけど。人間の死亡率はほんとに100%。やがて自分は死ぬんだ、この世から旅立つんだということを経験に入れて日々を生きていく時に、ほんとに逆ですね、充実した生が手に入るというふうに思えて仕方がないですね。

（講演内容一部抜粋 文責：広報委員会）

## チネカ神父を偲ぶ

ライムンド・チネカ神父が静養先のドイツ・ドルトムントにて、2008年12月1日、安らかに永眠されました。79年の生涯でした。

チネカ神父は、1970年に社会福祉法人「聖フランシスコ会」を設立し、地域の人々の生活を支えるため、「生野フランシスコ学園」、「生野子どもの家」、釜ヶ崎の「ふるさとの家」など、多くの福祉事業を立ち上げられ、また、在日コリアンやベトナム難民の人権擁護・生活支援にも活躍されまし

た。さらに、奈良の山に「レーベンス・シュレー」を建て、多くの人々を巻き込み、市民や障害者と共に、自然保護運動を実践されました。

関西いのちの電話では、創立期(1973年9月25日開局)から深く関わられ、初代理事長(1974~1978年)もお務めいただき、関西いのちの電話の礎を築いてくださいました。いのちの電話でのお働きに心から感謝申し上げます。

### 「ご平安をお祈りいたします」

元総主事 黒田 巖之



関西いのちの電話初代理事長ライムンド・チネカ神父は、ひとこと言えば「常に会衆の中にあつた方」と言えるでしょう。「神父」という立場にありながら、いつも、いのちの電話の相談員各位の中に溶け込んで苦楽を共にされたことは、まさに、聖書の教え(フィリピの信徒への手紙第2章6~8節)にあるように、「Sacred in secular」(一般社会の中に溶け込んだ聖職者)という言葉が当てはまる存在でありました。

そうであったればこそ、鳥之内教会から博愛社への移転に際し、危うく「関西いのちの電話」という組織が分解寸前という危機に遭遇した時、勿論他の役員方のサポートもありましたが、チネカ理事長のリーダーシップにより、無事に博愛社への移転を実現しました。

爾来30余年、その礎石の上に、今日の関西いのちの電話は力強く活動を続けているのです。

相談員たちの懇親会の席上、チネカ神父と私とで「ローレライ」をドイツ語でデュエットしたことを忘れることができません。

ここに謹んで、チネカ神父の「みたま」のご平安をお祈りいたします。

### 「天上での再会を信じ…さようなら」

評議員・元相談員1期生 飯沼 道子

関西いのちの電話が、1973年9月、鳥之内教会の一室をお借りして始まった時から、一緒に集まり、楽しい思い出がいっぱいです。

理事会にも加えていただき、いろいろと話し合い、教えをいただくことが多いでした。ドイツ人の神父様、はじめはどんな方かと遠くから見ていました。日本語がとてもお上手で、食べ物も日本の物を何でもおいしそうに召し上がりました。すぐ親しくなりました。私は同じキリスト教徒ですが新教徒なので、カトリックの方と親しいお交わ

りをしたことがありませんでした。チネカ神父様にお出合いして、カトリックの方と親しいお交わりができて、とても嬉しいでした。

関西いのちの電話が、十三博愛社に引越してから、いつも一緒に理事会で親しくお話をさせていただき、教えられることがいっぱいありました。いつもにこにこして、私たちを励まして下さいましたチネカ神父様、天上での再会を信じ、お別れいたします。有難うございました。さようなら。

## 傾聴と共感(1) 「聞く・訊く」

電話相談では、自殺するしかないといった緊迫した電話が入ります。

聞き手は、身構えて相手の訴えに耳と心を傾けます。そして、かけ手の訴えの背景をなんとか知りたいと、聞こうとします。

「どうされたのでしょうか?」「何があったのですか?」「いつから追い詰められた状況になったのですか?」と。この聞くは、質問する、訊問する意味での「訊く」です。

この訊くは、事実を知るため、自殺をしたいと思っている原因や理由を聞き出そうとしているのです。

これは、聞き手が自分の理解のために、知りたくて質問をしているのです。そして、もし、次のようなことが分かったとしたらどうするのでしょうか。

うつ病である。病気になったのは職場の人間関係だ。事業に失敗して、借金を返せず、追い詰められている。このような事情を聞いて電話でどのような

援助ができるのだろうか。病気も治せない、借金の肩代わりもできない。電話相談の限界なのです。

そこで、電話相談の聞き手は、電話の向こうにいる「死にたい」と言っているかけ手自身の追い詰められている気持ち、死ぬことしか逃げ道がないと思いつこんでいる考えのそばにいて、「いまは追い詰められて死ぬしかないという気持ちなんですね。」「死を選ぶことが唯一の解決策だ、というところまで追い詰められておられるのですね。」というような応答しかできないのです。

これも質問のような形で応答していますが、原因や背景を聞き出す質問とは、異なっていることは気づかれています。

聞き手は、かけ手のそばに居て、あなたの今の気持ちは○○なんですね、と反復をして、相手のいまの気持ちや感情を受けとるようにしています。

これが共感をベースにした「傾聴」で、そこからかけ手と聞き手の関係が始まるのです。

(長尾文雄)

社会福祉法人 関西いのちの電話 第14回チャリティーコンサート

### NEW KOTO 箏の新しい世界 ★ 片岡リサ 箏 リサイタル ★

日時：2009年8月7日(金) 開演18:30(開場18:00)

場所：いずみホール(大阪市中央区城見1-4-70/JR大阪城公園駅より徒歩8分/駐車場完備(有料))

チケット：前売り ¥2,000、当日 ¥2,500円(未就学児童のご入場はご遠慮ください)

チケット取扱：いずみホール チケットセンター(TEL 06-6944-1188)、関西いのちの電話事務局(TEL 06-6308-6868)

出演：片岡リサ(箏・歌)、西本 淳(サクソフォン)、日下部吉彦(解説・司会)

プログラム：宮城道雄/春の海(箏・サクソフォン)、八橋検校/六段の調(箏独奏)、新井 満/千の風になって(箏・歌)  
阿久 悠の世界メドレー(箏・サクソフォン)、ヴィジュアルデイ/ヴァイオリン協奏曲(箏ソロと合奏団)ほか

#### 電話相談受信件数

受信月	11月	12月	1月	2月	3月
受信件数	1,740件	1,823件	1,740件	1,554件	1,693件
相談員数(延)	441人	446人	429人	386人	443人

#### 編集後記

最近、多くの人形が主役となっている。愛らしい‘ひこにゃん’に対し、“きもかわいい”と批判を浴びた‘せんとくん’も、今では奈良の街角になじんだように佇んでいる。大阪から姿を消したくいだおれ太郎は‘吹き出し’でしゃべりながら、全国を旅行中のようだ。

24年ぶりにカーネル・サンダースも無事救出された。これらの人形は単なる人形を超えてあたかも生きているような親近感を感じるのはなぜだろうか。アトムやピノキオ、そして青い目をした人形達にいのちを

吹き込んだものは制作者の熱い情熱と愛情かもしれない。このようにして世に送り出されたいのちは大切なもの。カーネルおじさんも冷たい水の中で、きっと、そう思い続けていたに違いない。緩やかな流れの道頓堀にひとひらの花びらが浮かんでいた。(H.S.)

#### 社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72  
TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180  
発行人 今村一之 編集 広報委員会  
ホームページ <http://www.kaind.net/>